

指標確認シート

【資質・能力充実期】



愛媛県総合教育センター

—目次—

観点	キーワード	ページ
人間力	学び続ける向上心	1
	使命感・倫理観	2
	豊かな人間性	3
	人権感覚・人権意識	4
	識見・教養	5
	心身の健康	6
実践的指導力	省察力	7
	教科等指導力	8
	ICT 活用能力	9
	学級経営力	10
	生徒指導力・教育相談力	11
	特別支援教育実践力	12
	えひめ人材育成力	13
組織力	組織貢献力	14
	学校安全の意識・危機管理能力	15
	協働性・同僚性	16
信頼構築力	対人関係力	17
	地域と連携・協働する力	18

「学び続ける向上心」

社会環境の急速な変化、学校を取り巻く環境変化、大量退職・大量採用による年齢、経験年数の不均衡による弊害等により学校が抱える課題は多様化・複雑化しています。社会や国の変化を踏まえ、教員が高度専門職としてそれらの課題に対応していくためには、学び続ける向上心を持ち続けることが必要です。

基盤形成期

～ 資質・能力発展期

指標

常に目標を持ち、その実現に向けて、学び続ける。

社会の進歩や変化のスピードが速まる中、子どもたちの生きる力を育むためには、教員は教職生活全体を通して、自主的に学び続ける力が必要です。そのためには、年齢や経験年数に関わらず、自分で課題を見付け、常に新しい目標を持ち、課題を解決しようとする姿勢が重要です。

〔具体的な姿〕

- 社会、環境の変化を的確につかみ取り、それらを踏まえた適切な教育活動を実践している。
- 校内、校外研修など様々な研修の機会を活用したり、自主的な学習を積み重ねたりしている。
- 学校内において、同僚の教員と支え合いながら、OJTを通じて日常的に学び合っている。
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善等、新たな教育課題に取り組んでいる。
- 資質・能力向上のため、長期目標や短期目標を設定し、その目標達成に向けPDCAサイクルを機能させている。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
キャリアステージに応じて求められる資質・能力を理解している。			
自ら学ぶ姿勢を持ち、授業改善や教育課題の対応に向けて、研修等に取り組んでいる。			
適切な目標設定を行うとともに、実践、評価、改善を通して、自らの資質・能力の向上に取り組んでいる。			

「使命感・倫理観」

教員は、教育公務員として「全体の奉仕者」であり、高い倫理観が求められます。また、教育基本法で、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」と定められているように、教育の目的の実現に向け、全ての教員が教育者としてのあるべき姿を深く考え、強い責任感を持って職務に当たることが求められます。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

使命感や責任感を持って教育活動に取り組む。

教育公務員として法令を遵守し、職務を遂行する。

教員は、児童生徒の人格形成や人生の在り方に大きな影響を与えます。このことに対する情熱と使命感、強い責任感を持つことは、教員にとって不可欠な資質です。児童生徒に愛情を持って接し、適切な言動が常にできるよう、教員としての自己の在り方を見つめていくことが必要です。また、児童生徒や保護者、地域からの信頼を得る上で、法令を守り、児童生徒の手本となるような規範意識を持つことも大切です。

[具体的な姿]



- 児童生徒の人格形成や人生に大きな影響を与える仕事であるという使命感と強い責任感を持っている。
- 教職への情熱を持つとともに、客観的に自己を見つめ、教育者としてのあるべき姿について深く考え、自己研鑽をしている。
- 公平かつ愛情を持って児童生徒と接するとともに、一人の大人として、児童生徒の手本となるような言動をしている。
- 教育公務員としての職務上の義務と身分上の義務を遵守し、規範意識を持って職務に当たっている。

◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
教職への情熱を持つとともに、自らを客観視し、理想的な教員像の実現に向け、自己研鑽をしている。			
愛情を持って児童生徒と接し、児童生徒の手本となるような言動をしている。			
教育公務員として、「すべきこと」「してはならないこと」を明確にし、職務に当たっている。			

「豊かな人間性」

愛媛県は、求める教師像として、「子どもが好きで、未来を担う子どもたちを育成しているという誇りと気概を持って教育に当たることができる人」、「愛顔（えがお）にあふれ、あいさつを大切にしている人」、「仕事にも人にも誠実に向き合う人」の3点を挙げています。学校教育を巡る様々な課題への対応のために、優れた資質・能力を備えた魅力ある教師が必要とされています。

資質・能力向上期 ～ 資質・能力充実期

指標

子どもたちや保護者、同僚を魅了する豊かな人間性を持つ。

教員としての経験を重ねる中で、一人の社会人として、保護者や同僚からも認められる、魅力的な人間性を身に付けることが求められます。普段から教育者としての信念を持ち、日々の教育活動において、同僚の仕事をサポートしたり、真摯な態度で保護者と接したりして信頼関係を深めていくことが必要です。

【具体的な姿】

- 保護者の悩みや要望を真摯に受け止めることができ、協力して子どもを成長させていくパートナーとして信頼を得ている。
- 自分の仕事をいち早く処理し、周囲の人の仕事を率先して手伝うなど、職場の同僚のことを気遣っている。
- 後輩の面倒をよく見たり、失敗したときに上手にフォローしたりしている。
- 小さなことも見逃さずに褒めたり、その場や相手に合わせて臨機応変に動いたりすることで、周りにいる人々の心をつかんでいる。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
教育のプロとしての信念を持ち、自らの力量を向上させようとする姿勢で仕事に臨んでいる。			
保護者に対して、協力的な姿勢で誠実に対応し、信頼を得ている。			
同僚を気遣ったり、仕事を積極的に手伝ったりし、信頼を得ている。			

「人権感覚・人権意識」

学校においては、人権尊重の理念を全ての教育活動の基礎におき、進路を保障する教育の実践、同和問題学習をはじめとする様々な人権学習の推進及び仲間意識に支えられた集団づくりを通して、人権の確立と差別解消に向けた児童生徒の実践力の育成が求められています。そのためには、教員自らが深い認識と実践力を身に付けていくことが大切です。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

多様な価値観を尊重し、常に人権感覚を磨くとともに、人権意識を高め続ける。
人権問題に対する正しい理解や認識を深め、問題解決への確固たる姿勢を確立する。

全ての教職員が、差別の現実深く学ぶことを基本理念とし、同和問題をはじめとする様々な人権問題解決への確固たる姿勢を確立することが大切です。また、全ての児童生徒が喜びを持って参加できる学校づくりに努め、喫緊の課題である、いじめや不登校の未然防止や解決に向けて主体的に取り組む姿勢を確立することも不可欠です。

〔具体的な姿〕

- 人権・同和教育推進上の職務別の任務内容と課題を明らかにし、解決に向けて主体的に取り組んでいる
- 同和問題学習資料についての研究や分析をはじめ、研修会に積極的に参加するなど、差別解消に向けた自らの実践力を高めている。
- 教育活動において意見を取りまとめる際には、多様な考え方を受け止めながら、集団にプラスとなる解決策を模索する姿勢を大切にしている。
- プライバシーを巡る問題は、基本的人権に関わる重要な問題であると認識し、学校が保有する個人情報については適切に取り扱っている。
- 自らの発言や行動が学級や学校内の雰囲気をつくり出すことを意識し、定期的に振り返り、人権意識の高揚を目指している。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
学習資料の研究や分析をはじめ、研修会に積極的に参加するなどして、成果を日々の教育活動に取り入れようとしている。			
いじめや不登校の未然防止や解決に向けて、児童生徒の気になる様子や努力している姿について、同僚や保護者と情報を共有している。			
名簿、連絡網、写真の掲載、成績等、個人情報の取り扱いには十分配慮している。			

「識見・教養」

教員は教員である以前に、変化の時代を生きる社会人として必要な資質能力を十分に兼ね備えていることが不可欠です。そのため、教員は、広く豊かな教養を身に付け、社会人として適切に判断して行動することができるとともに、様々な情報が飛び交う時代で、それを正しい情報であるか判断しつつ、教育現場に反映できるような力が求められます。

資質・能力向上期 ～ 資質・能力充実期

指標 幅広い知識や教養を教育活動に生かす。

めまぐるしく変化していく時代に対応していくことや、変化に敏感に対応し、柔軟な考え方で、幅広い知識を教育活動に積極的に生かすことが求められます。学習指導要領をはじめとして、教育情報や最新の教育技術に精通するとともに、地域社会の課題や動向にも関心を持ち、広く学校の教育活動に生きるよう、情報を活用することが重要です。

【具体的な姿】

- 学習指導要領の改訂をはじめとして、幅広く教育情報を収集し、教員に必要な知識を身に付けている。
- 社会情勢の変化を敏感に察知し、これからの教育活動に必要な知識や考え方を吸収し、柔軟に対応している。
- 情報化やグローバル化など社会の変化をとらえ、専門性を高めるために努力し、学び続けている。
- 新しい指導法、教材などを積極的に取り入れ、教員としてのスキルを磨いている。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項 目	月日 /	月日 /	月日 /
幅広く教育情報を収集し、日々の教育活動の改善に取り組んでいる。			
社会情勢の変化を敏感に察知し、社会から学校への要請に対して適切に判断し、対応することができる。			
社会人としての常識的な判断基準を身に付け、児童生徒はもとより、後輩の手本となる言動がとれている。			

「心身の健康」

学校が抱える課題の複雑化・困難化に伴い、教員の勤務時間の長さや精神疾患による休職者の増加が指摘されています。充実した教員生活を送るための基盤は、心身の健康です。心身ともによりよい状態で子どもたちと向き合うことで、教育の効果も一層高まります。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

自他のワーク・ライフ・バランスを図り、心身の健康の維持・増進に努める。

教員の仕事は多忙であるため、仕事と生活が両立しにくい現実があります。やりがいや充実感を感じながら、日々の仕事と向き合うとともに、家庭生活の充実や自己啓発等に掛ける時間も大切です。限られた時間の中で効率よく仕事を進め、心身の健康の維持・増進に努めることが求められています。また、よりよい職場環境づくりのために、同僚の心身の健康にも気を配る必要があります。

[具体的な姿]

- 毎日の業務内容を明確にしたり、その日の退勤時刻を設定したりするなど、計画的に仕事を進めている。
- 健康の維持・増進のため、適切な運動、食事、休養、睡眠を十分にとっている。
- 適切に年休を取得するなど、家族や友人と過ごす時間や趣味に費やす時間を確保し、心身ともにリフレッシュしている。
- 同僚の仕事の状況にも気を配り、進んで声を掛けたり、助力したりする。
- 悩みを一人で抱え込まず、悩んでいる分野に精通している同僚に相談を持ちかけるなど、解決に向けて取り組んでいる。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
健康の維持・増進を図り、教員としての仕事と、プライベートを充実させている。			
計画的に時間を使い、能率的・効率的に仕事を進めている。			
同僚の様子に気を配り、協力して仕事を進めている。			

「省察力」

教員として成長し続けるためには、学び続ける向上心を持つとともに、自らを振り返り、課題を明確にし、自己の成長に向けた手立ての構築につなげていくため力が必要です。日々の教育実践や教員としての在り方について深く顧みて、成果や課題を分析し、キャリアステージに応じた適切な目標を設定していくことが求められます。

資質・能力向上期

～

資質・能力充実期

指標

自分のよさや課題を正しく認識し、日々の教育活動の改善に取り組む。

日々の授業や学級経営だけではなく、中堅教員として、校務分掌や人材育成、学校全体の運営について、自己の役割や取組を振り返ることが必要です。これまでの教職経験で培われた教員としての強みや課題を明確にし、学校教育目標の実現に向けて、自分の強みをどのように生かせるか、自分の課題をどのように解決していくかという視点で目標の設定と実践に取り組むことが求められます。

〔具体的な姿〕



- 日々の授業や学級経営だけではなく、校務分掌や学校運営に関わる取組について、振り返りと目標設定を行っている。
- これまでの教職経験で培われた、自分自身の教員としてのよさや強みを理解するとともに、改善する必要がある課題について明確にしている。
- 自己の課題の改善に向け、具体的な手立てを講じて実践に取り組み、教員としての更なる成長を図っている。
- 学校教育目標の実現や学校の課題の改善に向け、自己のよさや強みをどのように生かすか考え、実践を行っている。

◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
これまでの教職経験を振り返り、自分自身の教員としての強みと課題を明確にしている。			
日々の教育実践や学校運営に関わる自己の取組を振り返り、自己の強みと課題を踏まえた目標設定を行っている。			
学校教育目標の実現に向けて、自己の課題を改善するとともに、強みを生かした手立てを考え、実践を行っている。			

「教科等指導力」

教科とは教育の根本目的をもとにして、社会の要求を考え、そこから設定した教育目標に達するための多面的な内容をその性質によって分類し、いくつかのまとまりを作ったものです。教科は、学校教育の基本的な要素ですから、教科等指導力は、教育の目標を達成するための基本と言えます。

資質・能力充実期

指標

高い専門性を身に付け、中核となって授業実践を重ねる。

社会状況が急速に変化し、学校教育が抱える課題も複雑化・多様化する現在、教員には、不断に最新の専門的知識や指導技術等を身に付けていくことが重要で、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められます。そのため学習指導・授業づくりの力、教材解釈の力など高い専門性を身に付けた教員を目指すことが求められます。

【具体的な姿】

- 「この分野の指導に関しては誰にも負けない」といった得意分野を持っている。
- 学習指導・授業づくりの力、教材解釈力など、専門職としての確かな力量を持っており、同僚にアドバイスをすることができる。
- 地球的視野に立って行動するための資質・能力を身に付け、児童生徒が身近な事柄から、世界の出来事へと視野を広げられる発問や、振り返りの工夫をしている。
- 研修会や、研究授業の指導案審議等を企画し、同僚の指導力の向上を支援している。
- 自らの専門性を向上させるため、各種研修会や講演会に積極的に参加し、情報収集を行っている。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
教育の専門職として必要な資質・能力を身に付けることを常に意識している。			
積極的に得意分野づくりや個性の伸長を図り、自信を持って授業実践を行っている。			
同僚の指導力向上のため、研修会等では積極的に助言をしている。			

「ICT活用能力」

学習指導要領において、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力の一つとして明確に位置付けられました。この情報活用能力の育成を図るため、各学校においてコンピュータ等の情報手段を適切に活用した学習活動を充実することや、校務の効率化に向け、情報手段を活用することが求められており、教員のICT活用能力の向上が重要な課題となっています。

資質・能力充実期

～

資質・能力発展期

指標

校務の情報化など、教育の情報化の推進に積極的に参画する。

校務の情報化の推進は、校務の負担軽減につながり、教師が児童生徒と向き合う時間や、教師の資質・能力向上に向けた研修の時間を増やすことが可能となります。さらに、児童生徒の様々な情報の共有、学校ホームページ等の活用による家庭・地域との情報共有に役立ちます。

[具体的な姿]

- 校務に関わる情報の電子化や共有化が図れるような仕組みを構築するなど、校務の情報化を推進している。
- 教師間で児童生徒の情報や授業で活用できる教材等のデータを共有するとともに、同僚のICT活用指導力に応じた助言を行い、教育の質の向上を図っている。
- 地域や関係機関と連携し、教師や保護者、児童生徒の情報モラルの向上に向けた取組を推進している。
- 学校ホームページを利用して、学校の教育方針や教育活動の様子など、情報発信を積極的に行っている。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
同僚のICT活用指導力を高めるため、一人一人の能力に合わせた的確な助言を行っている。			
学校教育目標の実現に向けて、ICT機器を効果的に活用するとともに、情報化を推進する計画立案に参画する。			
保護者や地域、関係機関と連携し、児童生徒の情報モラル教育の推進を行っている。			

「学級経営力」

学級経営とは、学校の教育目標・学年目標を受けた学級目標を日々の具体的な実践を通して実現していく学級担任の意図的、計画的、継続的な営みです。そして、究極的には、一人一人の子どもの自己実現を目指すものです。全ての子どもが生き生きと目を輝かせて活動し、満足感や充実感が味わえる支持的風土作りをしていくことが強く求められています。

資質・能力充実期

指標

ミドルリーダーとして学年全体の向上に向けた取組を行う。

ミドルリーダーには、学校の教育目標・学年目標の実現のため、学校・学年経営への積極的な参画が求められます。そのためには、同僚や後輩教員が抱える学級経営上の課題や悩みを共有し、適切な助言・支援を行うとともに、児童生徒理解を深めるなど、学年の現状を分析し、学年全体の向上に向けた目標を設定して具体的な取組を行うことが必要です。

【具体的な姿】



- 同僚と積極的にコミュニケーションを図り、互いの学級の様子や悩み事を気軽に話題にできる雰囲気づくりを行っている。
- 日常的に学年全体のよさや課題について把握し、学年の諸課題を解決するために、率先して他学級と連携し、学級経営に当たっている。
- 学級を越えて児童生徒理解を行い、どの児童生徒にとっても安心して学べる集団づくりや授業づくりを学年全体で進めている。
- 同僚が抱える学級経営上の課題や悩みを共有し、共に考え、協力して課題の解決に取り組んでいる。

◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
同僚と情報交換を行う場を設け、学年の現状と課題を分析し、学年全体の向上に向けた目標を共有している。			
児童生徒の状況を把握し、適時性のある指導により望ましい学級集団づくりを学年全体で推進している。			
学級経営等で悩みを抱えている同僚をサポートしている。			

「生徒指導力・教育相談力」

生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的な資質や行動力を高めることを目指して行います。また、教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ります。生徒指導力や教育相談力を身に付けることは、児童生徒に自己実現を図っていくための自己指導能力の育成につながると考えます。

資質・能力充実期

指標

児童生徒の課題を共有し、チームとして問題の未然防止や解決に当たる。

教員は責任感が強く、「他の先生も忙しいから迷惑を掛けてはいけない。」と何でも一人で解決しようとしがちです。しかし、その責任感が問題の解決を困難にする場合もあります。子どもが抱える課題を、関係する教員が共有し、チームとして組織的に対応していくことが、問題の未然防止や解決への近道になります。

[具体的な姿]



- 確実な支援を行うために、必要に応じてスクールカウンセラーや相談機関へつなぐことも視野に入れている。
- 問題の抱え込みを防ぐために、児童生徒の抱える課題等の対応で苦慮している教員に、一人で抱え込まず誰かに相談することを勧めている。
- 課題解決の意識を高めるため、話合いの場においては、傍観者ではなく、自身のできることを念頭に置いて、意欲的に発言している。
- 特定の教員に負担が掛からないようにするため、児童生徒の課題解決に向けた自分の役割を理解し、他の教員と協力しながら取り組んでいる。

◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
小さな問題と思えることでも、同僚や上司（管理職）に伝え、情報を共有している。			
学年会やケース会議などには、児童生徒が抱える課題解決に向けて意欲的に参加している。			
学年部等の組織（チーム）内での自分の役割を理解し、児童生徒が抱える課題の解決に積極的に取り組んでいる。			

「特別支援教育実践力」

障がいのある児童生徒の生活や学習上の困難を改善又は克服するためには、インクルーシブ教育システムの考え方を理解し、適切な指導及び必要な支援をできることが求められます。また、障がい者理解を推進するために、校内外で組織的・計画的に対応する力を身に付けることも重要です。

資質・能力充実期

～

資質・能力発展期

指標

支援が必要な児童生徒に組織的・計画的に対応するなど、学校の中核として特別支援教育の推進に努める。

特別支援教育の視点を踏まえた学習指導、学級経営、生徒指導等の実践を蓄積し、校内への普及・継承を進めることが求められます。また、個別の教育支援計画等を活用し、他の教職員や関係機関と連携して支援を推し進めることが重要です。

【具体的な姿】

- 若手教員から、児童生徒への対応の相談があり、児童生徒の困っている背景を推測して、児童生徒本人への対応方法やその保護者への関わり方を助言している。
- 障がい者が日常・社会生活で受ける制限は、心身の機能の障がいのみならず、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものという考え方をもち、障がい理解を校内外で推進している。
- ケース会議で、保護者の考えや本児の実態を踏まえ、合理的配慮を保護者・本人に提案して合意形成を図り、その内容を個別の教育支援計画に明記し、個別の指導計画を作成する際に活用している。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項 目	月日 /	月日 /	月日 /
特別支援教育の視点を踏まえた学習指導、学級経営、生徒指導等の成果を他の教職員に伝えている。			
児童生徒の障がい者理解を促進するために、実践を蓄積し、校内外への普及・継承を進めている。			
個別の教育支援計画等を活用しながら、校内委員会やケース会議で中心的役割を果たしている。			

「えひめ人材育成力」

愛媛県では、「愛媛の未来づくりプラン」において、4つの愛顔（えがお）づくりへの挑戦の一つとして、「未来を拓く豊かで多様な『人財』を“育む”」ことを挙げています。学校では、一人一人の児童生徒が愛媛の未来を担い、世界にも貢献できる「人財」となることを目指すことが求められています。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

ふるさと愛媛に誇りと愛着を持たせる教育の実現に努める。
国際的な視野を養うとともに、地域の課題に目を向け、愛媛の未来を拓く人材の育成に努める。

様々な教育活動を通して、児童生徒が愛媛のよさを理解し、愛媛に誇りを持つことができるような工夫が必要です。また、グローバル化する社会で活躍する児童生徒の育成を図るとともに、地域のよさと課題を明確に捉え、地域のよさを伸ばし、課題を解決しようとする意欲的な態度を育むことが求められます。

[具体的な姿]

- 愛媛の風土、文化、歴史、産業等について、常に最新の情報を収集している。
- 愛媛のよさや課題について理解し、様々な学習活動や体験活動に生かしている。
- 様々な教育活動の中で、国際理解教育の視点を取り入れ、児童生徒の多様な価値観を尊重し合う態度の育成を図っている。
- 世界と地域のつながりなど、児童生徒が広い視野から地域のよさや課題を捉え、よりよい社会をつくろうとする実践的な態度の育成を図っている。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
愛媛の風土や文化、新しい情報などに関心を持ち続け、教育活動に生かしている。			
様々な教育活動の中で、多様な価値観を尊重し合う態度を育成している。			
児童生徒が国際的な視点から地域のよさや課題を捉え、持続可能な社会をつくろうとする態度の育成に取り組んでいる。			

「組織貢献力」

組織には、共通目標（組織目標）、協働意識（貢献意識）、コミュニケーションが必要です。学校の教育目標を達成するためには、それぞれの教員が専門性を高め、組織の一員としてその役割に応じて活躍することが求められています。一人一人が組織貢献力を身に付けることにより、一人では達成できない共通の目標を実現することが可能になります。

資質・能力充実期

指標

ミドルリーダーとしての自覚と責任を持ち、職務に当たる。

教科等主任や担当校務の主任としての活躍が期待される時期となります。学校運営の中核を担うミドルリーダーとしての自覚と責任を持ち、職務に当たることが求められます。自分個人のことだけでなく、組織としての使命を重視して職務に向き合うことが大切です。

〔具体的な姿〕

- 学校内外の資源について知り、その資源を効果的に活用し、職務を遂行している。
- 学校運営や職務の推進について、従来の考えにとらわれない発想やアイデアを持っている。
- 学校の教育目標（組織目標）を意識し、その実現に向け、担当する職務の方針や方法を考えている。
- 教科等主任や担当校務の主任として、方針や方法を明確に示し、その実現に向け、他の教職員と連携を取りながら意欲的に取り組んでいる。
- 目標が達成できたか定期的に点検するとともに、改善策を考えながら、達成できるまで、根気強く努力している。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
学校の教育目標を意識し、その実現に向け、担当する職務の方針や方法を考えている。			
担当する職務の方針や方法を明確に示し、リーダーシップを発揮している。			
目標が達成できたか定期的に点検するとともに、改善策を考えながら達成できるまで、根気強く努力している。			

「学校安全の意識・危機管理能力」

学校の教育活動等においては、児童生徒等の安全の確保が保障されることが、最優先される前提です。全ての学校において、管理職のリーダーシップの下、学校安全に関する組織的な取組を推進するとともに、全ての教職員が、各キャリアステージにおいて必要に応じた学校安全に関する資質・能力を身に付ける必要があります。

資質・能力充実期

指標 様々な事案に迅速で適切な対応をする。

事件・事故災害が発生した場合、状況によっては自らがリーダーシップを発揮して、迅速な初期対応を行う必要があります。そのためには、日頃から事案に対する対応や報告の手順など、危機管理マニュアルの内容を熟知しておくとともに、学校安全に関する研修を深めていくことが大切です。また、ミドルリーダーとして、自己の実態を踏まえた事件・事故等の未然防止策の提案や安全教育の工夫など、学校安全の推進に向けた積極的な役割が求められます。

〔具体的な姿〕

- 事件・事故災害が発生した場合には、自校の危機管理マニュアルに基づき、他の教職員と連携し、状況に応じた的確な判断と機敏な行動で対応する。
- 自校の危機管理マニュアルの内容を熟知するとともに、学校安全に関する研修を深める。
- 教育計画を立てる際に、事故発生の可能性を予測し、児童生徒の安全を優先した教育活動ができるように、リーダーシップを発揮する。
- 事件・事故災害につながる可能性がある、地域や児童生徒が抱える課題について他の教職員と連携し、情報の収集・共有を行う。
- 事件・事故災害に際して、児童生徒が的確な行動選択ができるようになるための安全教育を、学校全体で推進する。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
自校の危機管理マニュアルに基づいた緊急時の対応について理解するとともに、学校安全に関する自己研修に積極的に取り組んでいる。			
学校内外の危険箇所等を把握し、他の教職員に情報提供をするなど危険の除去に努め、児童生徒の安全を優先した教育活動を行っている。			
他の教員の模範となる実践を行うなど、効果的な安全教育を推進している。			

「協働性・同僚性」

学校における複雑かつ多様な課題に対応するためには、職場の同僚間のチームワークを高め、組織的かつ効果的な対応を行う必要があります。そのため教員は、共通の目的に向かって課題を解決するために協働することが重要です。さらに、協働性を高めていくためには、よりよい職場の人間関係や仲間意識を築き、同僚性を発揮していくことが必要不可欠です。

資質・能力充実期

指標

よりよい同僚性を築き、ミドルリーダーとして課題の解決に当たる。

学校の諸課題を解決するためには、協働して取り組む体制をつくっていくことが大切です。そのためミドルリーダーは、学校内の様々な組織の中で、互いに支え合い、高め合っていく人間関係づくりなど、よりよい同僚性を築くことが求められています。

〔具体的な姿〕

- 他の学級や学年と合同で行う活動や交流の機会を設け、一緒に授業プランを考えたり、教材や指導方法などについて共同で研究したりしている。
- 誰とでも気軽に接し、「分からないことをお互いに聞ける」「困ったことが相談できる」職場環境づくりを率先して行う。
- 学年を越えて積極的にコミュニケーションをとり、悩みを抱える同僚を支えたり、後輩の教員に、自分の失敗談を話したりするなど、日常的なアドバイスを行う。
- 学校行事や研究会の企画運営等に携わる中で、協力して課題を解決しようとしたり、他の人の仕事を支援したりする。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
自分の指導方法等をオープンにし、情報交換を行ったり、アドバイスをしたりして、互いに支え合い、高め合っている。			
教職員同士で、日頃からお互いに声を掛け合い、相手の立場や気持ちを考え、円滑な職場環境づくりを行っている。			
自らの専門的な能力や指導力を発揮しながら、みんなが協働して仕事を進めていける体制づくりを推進する。			

「対人関係力」

学校においては、児童生徒や保護者だけでなく、同僚や地域の人々まで広く信頼される教員が求められています。そのためには、自らの考えや学校の方針等を分かりやすく説明するとともに、相手の考えを正確に理解し、組織としてのよりよい方向性を見出すための意思疎通を行っていくことが大切です。

資質・能力充実期

指標

様々な立場の人々と積極的につながり、人間関係を広げる。

今までに身に付けてきたコミュニケーション能力等を活用して、勤務校の教職員とだけでなく、地域や社会の様々な立場の人々や組織等と連携・協働して教育活動に当たる必要があります。他者の意見に傾聴し、児童生徒の育成やよりよい学校づくりを推進していく姿勢が求められます。

【具体的な姿】

- 課題把握やその解決のために、校内研修会や職員会議等において積極的に発言する。
- PTA活動や地域行事等に積極的に参加し、学校や地域の抱える教育課題について保護者や地域の人々と意見交換を行う。
- 自分がリーダーとなっている分掌では、一人の担当者が実務を抱え込むことなく課題を共有化できているか、活発にコミュニケーションをとる。
- これまでに身に付けてきたコーチングやメンタリングのスキルを活用し、若年教員に対して、自ら気づき考えるよう促す。
- 校外の研修会や研究会に積極的に参加し、他校の教員と交流することにより教育課題について情報を収集し、そこで得た情報を勤務校における教育活動に生かす。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
学年会等で積極的に発言するとともに、他者の意見に傾聴した上で、教育課題を見付けようとしている。			
PTA活動や校外の研究会に積極的に参加して人間関係を広げるとともに、様々な立場の人々と意見交換を行っている。			
一人の担当者が実務を抱え込むことがないように、積極的にコミュニケーションをとり、課題を共有している。			

「地域と連携・協働する力」

学校が抱える課題が複雑化・困難化する中、学校は「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域との連携を一層進めていくとともに、地域においても、子どもたちの成長を支える活動に、より主体的に参画していくことが必要です。「地域とともにある学校」への転換を目指していく上で、地域のニーズを把握し、積極的に関わっていくなど地域と連携・協働していくことが求められます。

資質・能力充実期

指標

地域の人材と情報を効果的に活用して、教育活動の充実に努める。

地域の行事や活動において機会に応じて参加し、地域の人々と交流を図ることにより、地域に関する情報や人材についての情報を収集することが大切です。その情報を基に、教育課程上での目的を明確にして、活用場面、活用する人材、活用方法等を検討し、見通しを持ちながら教育活動を行うことが必要です。

【具体的な姿】

- 地域の行事や活動において機会に応じて参加し、地域の人々との交流を図り、学校の教育活動の充実につながる情報を収集している。
- 収集した地域に関する情報を活用し、地域の人々と連携して、地域教材の開発を行っている。
- 授業のねらいを達成するために、自分の担当教科等で地域の人を招いたり、地域教材を活用した授業を実践したりしている。
- 職場体験学習やボランティア活動など体験的な学習活動を企画するなどして、地域とのつながりを日々の教育活動に活用している。
- 地域教材に関する情報交換する場を設け、他の教員と共有化を図っている。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
地域の活動や行事に機会に応じて参加し、地域の人々と交流を図り、学校の教育活動の充実につながる情報を収集している。			
地域に関する情報を基に、地域の人々と連携して、地域教材の開発を行い、地域教材を活用した教育実践を行っている。			
作成した地域教材に関して、情報交換する場を設け、他の教員と共有化を図っている。			